

# ダイズ圃場におけるウコンノメイガの発生活長と殺虫剤の防除効果

石本万寿広・渡辺謙介（新潟農総研作物研）

2011年に、新潟県内の3地点（柏崎市藤井、長岡市長倉町、長岡市神谷）のダイズ圃場（品種：エンレイ、は種期：5月下旬～6月上旬、開花期：7月第5半旬）で、ウコンノメイガ成・幼虫数と葉巻数の推移を調査した。柏崎市藤井では、成虫は7月中旬にわずかに確認され、7月第6半旬（越冬世代）と8月第4半旬～9月上旬に（第1世代）ピークが認められた。葉巻は7月15日に初確認され、8月中旬にかけて増加した。長岡市神谷では、成虫は8月上旬まではごくわずかに確認されたのみで、8月中旬以降に増加した。葉巻は7月29日に初確認され、8月下旬に最多となった。長岡市長倉町では、成虫は7月中旬にわずかに確認され、7月下旬～8月上旬に明瞭なピークがみられた。葉巻は8月10日に初確認され、8月下旬に最多となった。このように、成・幼虫、葉巻の発生時期は、調査地点によって異なることが確認された。

長岡市神谷のダイズ圃場において殺虫剤の効果試験を行った。供試薬剤はMEP乳剤（1,000倍）、クロラントラニリプロール水和剤（4,000倍）、フルフェノクスロン乳剤（4,000倍）、散布日は7月26日、8月2日、8月9日とした。7月26日は葉巻発生始期で1、2齢幼虫主体、8月2日、8月8日は葉巻急増期で、7月26日に比べ幼虫の齢期は進行していた。葉巻発生盛期（8月18日）の葉巻数は約2個／本であり、少発生であった。MEP乳剤は、7月26日散布では散布後も葉巻数が増加を続け、8月2日散布、8月9日散布では、散布1週間後には葉巻は増加し、その後減少した。フルフェノクスロン乳剤は、MEP乳剤と似た傾向であったが、7月26日散布ではMEP乳剤に比べ葉巻は少なく推移した。クロラントラニリプロール水和剤は、7月26日散布では調査期間中葉巻は極めて少なく、8月2日散布、8月9日散布では、散布後速やかに葉巻が減少した。このように、薬剤の種類、散布時期により防除効果は異なり、3剤の中ではクロラントラニリプロール水和剤が最も防除効果が高く、速効性、残効性いずれも優れているとみられた。フルフェノクスロンは速効性がやや劣り、MEP乳剤は、老齢虫に対する殺虫効果がやや低く、残効も短いとみられた。